令和4年度第2回ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方検討会議 議事録

期日：令和4年10月24日（月）

場所：各所属（テレビ会議システム）

協議「自立活動に関する情報の一元化をめざした「ひょうごつながるブック（仮称）」について」 ～ICT活用による、情報の活用と共有に向けて～

【課題】

- ・地図を載せることで、地区別の印象を見る側に与えてしまう。レイアウトは検討すべき。
- ・活用する各教員が見やすいよう、見る側に立った構成の検討が必要である。
- ・紙媒体にした場合、文字量が多いと読む側の意欲を削いでしまう懸念がある。
- ・ICTをイメージできる標題にすると良い。
- ・情報量が多過ぎると、伝えたいことが伝わりにくくなる。
- ・事例も大切だが、事例にたどり着くために検討したプロセスこそが各教員が本当に欲しい情報ではないか。

【「ひょうごつながるブック」の作成に向けて】

- ・各教員が見やすいよう1枚物の共通シートを作り、各項目に二次元コード等を通してアクセスできるよう配置してはどうか。また支援機器、アプリの紹介、活用場面の動画等、活用する側に次回も使ってみたいと思わせるようなレイアウトにするべき。
- ・伝えたいことを効果的に伝えることができるよう、掲載する内容を絞る。
- ・各学校でグループウェア等で閲覧することを想定すると、電子媒体の方が使いやすい。検索サイトで検索できる特別支援学校の事例集になるよう、進化させてほしい。
- ・自立活動の大切さ及び魅力について、しっかりと伝えることが最も大切なポイントである。
- ・つながるために、どうすればつながることができるのか、またどこに頼ればよいのか、「つながることの魅力や意味」を端的に分かりやすく伝えることが自立活動とICTの魅力伝えることにつながっていく。
- ・入口が入りやすいよう極力文字量を少なくし、必要な情報は配置している二次元コードから得るような仕組みにすると良い。また見る側がスマホを取り出したくなるようなキャッチフレーズを使えば（ツイッターの文字数のイメージ）、よりアクセス者を増やすことにつながる。
- ・各事例と併せて、その事例に辿り着く上でどのような検討をしたかということやうまく掲載してほしい。どのように事例を構築したかということや共有できれば、私にもできるという感覚を各教員が持つことができる。